

駐韓日本公使館記録

14

國史編纂委員會

明治三十三年二月二十三日

〔林 公使〕

釜山 能勢 領事

(27) 機密第五號

〔鬱陵島 日人行爲 立會調査 件〕

在鬱陵島本邦人ノ行爲立會調査ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り外務大臣へ具申致置候ニ付其内出張ノ電訓ニ接セラレ候事モ可有之然ル上ハ更ニ蒼龍號仁川出帆ノ日取等ヲモ御通知可致候間是非待合ハセ便乗御出張相成度調査ノ事項ハ外務大臣へ御報告相成ルト共ニ詳細本官宛御報告相成度尙又本邦人盜伐ノ件ハ露人トノ關係モアリテ昨年來問題ト相成居候ニ付調査上御參考ノ爲メ必要ノ關係書類一括封中及御送附候右申進候 敬具

明治三十三年五月四日

〔林 公使〕

釜山 能勢 領事

封入書類目録

- 光武三年九月十二日照會第九十號 來信
- 明治三十二年九月二十日第一〇號 往信
- 同 九月二十九日第一〇號 往信
- 光武三年十月四日 九十號 來信
- 光武四年三月十六日 一六號 來信
- 明治三十三年三月二十二日二四號 往信
- 機密第三四號 寫
- 覺書

○ 別紙

覺書

- 一、明治二十九年韓帝露館播遷中鬱陵島伐木權ヲ露人「ブリーネル」ニ讓與セリ
- 一、明治三十二年八月在東京露國公使ハ我邦人ノ盜伐ヲ禁止セラレタキ旨帝國政府ニ要求セルニ依リ其結果在元山高雄書記生ヲシテ摩耶艦ニ乗シ同島へ出發セシムル事トセリ
- 一、同九月下旬高雄書記生ハ同島ニ上陸ノ目的ヲ達シ十一月末日ヲ限リトシテ本邦人ニ退去ヲ命セリ然レトモ同書記生ノ報告ニ據ルニ本邦人ハ島司ノ承諾ヲ得テ伐木スルモノニシテ眞ノ盜伐ニアラサル旨ヲ述ヘタル由

一、該島伐木ハ將來永ク紛紜ノ基タルヲ慮リ此紛擾ヲ避クル爲メ一方ニ於テ我邦人ヲシテ露人ヨリ伐木權讓受ケノ内談ヲ露人ニ於テモ大體之ニ同意シ目下尙交渉中ナリ (此一項ハ韓人ハ勿論在島日本人ニ向ツテモ秘密ニセンコトヲ要ス)

(28) 機密第六號

日韓官吏鬱陵島出張ニ關スル件

在鬱陵島本邦人ノ行爲立會調査ノ件ニ關シ茲ニ機密第五號ヲ以テ貴官御出張ノ事ヲ申進置候處其後電信往復ノ結果貴館在勤赤塚領事官補ヲ出發セシムルコトニ相成尙ホ同官ノ通辯トシテ當地領事館在勤渡邊警部ヲ隨行出張セシメ候間左様御承知相成度候若シ又貴官ノ御意見次第ニテハ貴館附巡查ノ中一二名ヲ隨行出張セシメラレ無差支候尤モ當國政府ヨリハ内部參書官禹用鼎ニ外部主事一名及巡查貳名ヲ附シ出張セシムルコトニ相成右一行ハ渡邊警部ト共ニ不日出發ノ筈ニ有之候就而者彼我派遣官吏ニ於テ調査事項別紙ノ通提議シ本官及ヒ内外部兩大臣トノ間ニ協定シ雙方同一ノ訓令ヲ交附スルコトニ取極メニ付赤塚領事官補ヘモ同様別紙御交附相成度候但シ該末項ニ掲タル如ク這回派遣ノ日韓調査委員ノ權限ハ單ニ立會ノ上各項事實ヲ調査シ其結果ヲ復命スルニ止メ本件ニ關シ何等處分權ヲ有セス追而彼我委員ノ復命ヲ俟ツテ京城ニ於テ商議ニ附セラルヘキ筈ニ付同官ニモ右様御含メ置相成度候若シ又立會調査ニ當リ彼我委員間意見ヲ異ニスル場合モ有之候ハ雙方調査書ニ其理由ヲ附記シ置クコト必要ト認メ候

將又前般派遣官吏ノ一行ハ本月々末迄ニ貴地ニ赴キ總稅務司「ブラオン」所管ノ汽船中一艘ヲ貴地ヨリ右一行ノ爲メ特ニ該島ニ派遣スルコトニ相成居候ニ付貴官ハ稅關長「ラポート」氏ニ御打合セノ上該島ニ於ケル調査日子ヲ豫定シ該船ハ一行ノ鬱陵島上陸ヲ了ヘタル上一時便宜ノ浦港ニ寄航シ而シテ豫定日再ヒ該島ニ回航シ一行ヲ乘セ歸ル等ノ處置ヲ執ラシメ候様御協議相成度候此段別紙相添申進候 敬具

明治三十三年五月二十一日

林 特命全權公使

領事 能勢 辰五郎 殿

追テ當國政府ヲシテ將來尙ホ本邦人該島ニ在留スルコトヲ承認セシムル事必要ニ有之赤塚官補ハ可成該島官吏カ本邦人ノ在留ヲ承認又ハ伐木ヲ承認若クハ默認セル狀況ヲ主眼トセラレ度而シテ右主眼ハ赤塚官補ニ於テ機密ニ承知セラレ度又赤塚官補ハ本問題ヲ離レ本邦人ト該島民トノ往來交通ノ狀態感情ノ良否及諸般ノ關係ニ就キ實際ノ狀況ヲ可成精密ニ調査シ報告相成度併テ又該島ニ於ケル露國人ノ伐木權讓與一件ニ關シ高嶋泰義等ニ於テ此回出張ノ序ヲ以テ實況調査ノ爲メ代人ヲ派シ同行ヲ願出ツルコトモ或ハ可有之ニ付右ノ場合ニハ赤塚官補ノ隨行者トシテ願意許可セラレ度此段御申進候也

○ 別紙

鬱陵島在留日本人調査要領

一、有日本無恤之民數百名冒佔一區自成村落駛行船舶斫伐木料偷運貨物侵虐居民少拂其意恣意暴動用兵器全無顧忌地方官吏不得禁止然ルニ右光武三年九月十六日外部大臣照會内所稱昨年九月中高雄書記生該島ニ出張シ在留本邦人ニ退去ヲ命スルニ當リ同人等ハ抗議ヲ提出セリ其ノ云フ所ハ本邦人ノ該島ニ前往シ伐木ニ從事セルモノハ該島監ノ許可經テ相當ノ伐木料ヲ納付シタルモノニシテ敢テ盜伐ニ非ラスト左スレハ照會ノ意味ト事實稍齟齬ス

一、日本人尙無退去之意亂斫樹木愈往愈甚島監不可坐視其無理直欲躬赴漢城告愬事實奈日本人等派守各津口使我人不得通涉事

二、以伐木一案島監往訴日本裁判所經質查索賠今爲幾年之久日本人藉稱伊時裁判費爲數萬元向島監責償威逼脅持無所不主島民恐懼代爲辨備發賣產業無以充補其所要之額現在危困之中

三、日本人給錢韓人金庸愛訂有伐木之約若要禁伐必須償錢等語島民等視樹木如性命將該錢三千餘兩一併償償云々

右光武四年三月十六日外部大臣照會内稱

第一 ノ事實ハ甚タ疑ハレ果シテ事實右ニ相違ナカラン乎其曲本邦人ニ歸スヘキモ惟ニ何等カ此間ニ事情存スルモノカト察セラル、ヲ以テ事實調査ヲ要ス

第二 凡裁判費用ナルモノハ其敗訴者ノ負擔ニ歸スヘキハ普通ノ道理ナリ現ニ島監ハ勝訴者ノ地位ニアリトセハ隨テ裁判費用ヲ負擔スル理由ナキニ拘ハラス却テ敗者タル本邦人ヨリ島監ニ向ツテ裁判費用ヲ要求セリト云フハ矛盾ノ甚シキモノニシテ事實如何ヲモ疑ハシ

第三 本邦人代價ヲ支拂ヒ買取リタル樹木ノ禁伐ヲナサンニハ宜シク先其金額ヲ辨償スヘキハ當然ノ道理ニシテ敢テ辯ヲ俟タサルモ爲念取調置ク事必要ナラン

此次派遣ノ日韓調査委員ハ以上各項ノ事實ヲ立合調査シ其結果ヲ復命スルノ外本件ニ關シ何等處分ヲ行フ權限ヲ有セス但シ日韓當局者ハ該委員等ノ復命ヲ俟ツテ京城ニ於テ審議辦理スルモノトス

(29) 機密第一號

〔馬山浦所在土地의 日人所有權問題에 관한 건〕

本月九日機密第六號ヲ以テ御申出相成候蘆田所有權問題ニ關シテハ從來當國ノ慣例ニ由レハ勿論個人間ニ所有權存在スルモノト思料致候間曾テ外部大臣ニ就キ一應之ヲ確メン爲メ開談致候得共同官ノ答フル所頗フル曖昧模糊トシテ要領ヲ得ス就テハ本問題ヲ確定スル事ハ姑ク之ヲ他日ニ譲リ貴地ニ於ケル迫間買收ノ蘆田ニ對シテハ貴官意見ノ通り現狀ノ儘ニ附シ置候方得策ト認メ候此段回答申進候 敬具

明治三十三年二月二十六日

在馬山 分館主任

領事官補 坂田 重次郎 殿

(30) 機密第三號

〔露公使 馬山浦土地買入에 관한 件〕

馬山浦地所買入之件ニ付今般貴地駐在俄國公使ト當國外部大臣トノ間別紙寫之通り取極相成候ニ付御參考迄ニ送付及候尙早晚發表可相成者トハ存候ヘトモ差當リ秘密ニ屬スヘキ者ニ付左様承知相成度候也

明治三十三年四月十八日

林 公使

在馬山 領事 坂田 重次郎 殿

(別紙ハ公使手許)

(31) 機密第四號

〔露國의 馬山浦軍用地買收 件〕

本月二十日付公第二五號ヲ以テ馬山浦ニ於ケル露國ノ軍用地所買收ニ關スル件御申越相成末段ニ於テ栗九味平地ニ乏シキカ爲メ露國ハ必然海岸埋立ノ舉ニ出ツヘク此場合ニ於テ我買收地ノ漲灘權ニ付御申出ノ趣了承致候右ニ付キ本官ハ我買收地ノ漲灘權ハ主張シ得ヘキ者ト認メ候間自然右權利主張ノ必要モ有之候ハ、時機見計ヲヒ御提議相成可然ト存候右御回答及候也

明治三十三年四月三十日

林 公使

在馬山 領事 坂田 重次郎 殿

(32) 機密第五號

〔釜山・馬山間 電信線架設 件〕

釜山馬山間ニ我電信線架設ノ儀ニツキ客月十五日附機密半公信ヲ以テ御申越相成逐一承致候然ル處御承知之通り今日ハ曩キニ我邦カ京城釜山間又ハ京城仁川間ニ軍用電線架設ノ權ヲ得タル當時トハ大ニ其時勢ヲ異ニセル事ナレハ今突然斯ル提議ニ及ヒ候トモ其成効ハ何分覺束ナキ儀ニ有之就テハ先ツ當國有司ニ注意シテ可成電信ノ監理ヲ嚴確ナラシムルト同時ニ一方ニハ

「ラ」氏ニ譲リタリ然レトモ「ミシチエンコ」ノ買收地ハ日露兩國領事館附近及他日日本郵便局ノ設置サルヘキ地區ノ前面ナレハ概シテ有望ノ地點ニアル故彼レハ大ニ満足シ敢テ他ノ買收者殊ニ日本人ニ對シテハ競賣ヲ試ミサリシ由

彼レハ馬山浦ニ永住ノ目的ヲ以テ其家屋建築及其他居住ニ要スル物件購入ノ爲メ最近便船ニテ長崎ニ赴ク筈ナリ

彼レカ馬山浦ニテ聞込ミタル風評ニ依レハ同地ノ各國租界ヲ距ル凡六露里（我貳里弱）ノ所ニ豫テ日本人ノ買收セル地所アリシカ露國ハ軍艦碇繋所石炭庫病院等建設ノ爲メ朝鮮政府ヨリ之ヲ買收シ既ニ國旗ヲ掲ケシニ日本人某々等該地面ニ各自所有ノ標識ヲ立テタルヨリ露國艦長ハ其水兵ヲシテ之ヲ取除カシメタリ然ルニ日本人ハ大ニ憤激シ遂ニ目下日露間ノ一問題トナリ今後兩三日以内ニ日露兩國領事間ニ圓滑ニ其局ヲ結ハサレハ由々數大問題ヲ引キ起スニ至ラン云々

明治三十三年五月二日

(45) 機密京第一三號

〔上件 第二次 探聞報告書 提出 件〕

當港滞在中ノ露國人「ミシチエンコ」ヨリ別紙之通り探聞致候處稍架空ノ想像ニ過キサル嫌ナキニシモアラサレトモ爲御參考別紙差進候 敬具

明治三十三年五月八日

在釜山 領事 能勢 辰五郎 團

在京城 特命全權公使 林 權助 殿

○ 別紙（機密京第一三號附屬）

〔上件報告書寫本〕

露國カ今回朝鮮政府ヨリ買收セル馬山浦租界外敷露里ノ所ニアル撰定地ニ於テ多額ノ材木ヲ陸揚ケシ且ツ數多ノ水兵ヲシテ地段ヲ開墾センメツムアルノ目的ニ就キ當港寄留ノ露國人「ミシチエンコ」ヨリ探聞スル處ニヨレハ右ハ露國カ同地ニ設計スヘキ海軍用諸建築物及其他該買收地ニ於ケル各種利益保護ノ爲メ同地ニ駐劄セシムヘキ陸戰隊（露語ニテ「スホプートヌイ」ト云フ）ノ兵營ヲ建築スヘキ材料ノ由ニテ漸次石炭庫武庫病院糧食庫等ノ造營ニ着手スヘク且ツ此地ニ置クヘキ該海兵隊ハ日本カ釜山ニ於テ有セル兵力ト平均ヲ保ツ迄ノ兵員タルヘク最初ハ凡一中隊ニシテ日本カ其陸兵ヲ釜山ニ駐劄セシムル間駐屯セシムルモノナリト云フ

又今回露國政府ノ買收地面積ハ凡九十九萬米突計リニシテ同國ハ之ニ對シ千二百萬留ヲ拂ヒタリトノ由「ミシチエンコ」カ曾テ聞キ込ミタル風説ニヨレハ露國皇帝ハ對韓政策ノ第一着ト

シテ其姉妹ノ一人ヲ韓帝ノ皇后ニ推進スヘク之カ斡旋ニハ曾テ北京ニ於テ滿朝大臣ノ買收遼東占領等ノ大功ヲ奏シ大ニ露帝ノ賞賛ト信任ヲ得タル駐韓公使「パヴロフ」氏之ニ當ルヘク果シテ其目的ヲ達スヘキ曉ニハ之ト同時ニ韓帝ヲシテ露國々教ニ改宗セシム一般韓民ニセ命令ニ之ニ効ハシムヘク而シテ數百ノ露國僧侶ハ韓國各地方ニ布教ヲ試ミ或ハ財貨ヲ以テ或ハ迷信ヲ利用シ數年ヲ出スシテ上下韓民ハ其宗教及皇室ノ因縁ヲ同フセル露帝ノ臣屬タルヘク所謂兵ニ血ヲ流シテ韓土ヲ併吞スルノ深謀ナル由且ツ若シ結婚一件成就ノ上ハ王妃保護ノ爲メ露帝ヨリ幾隊カノ近衛兵ヲ京城ニ駐劄セシムヘキ筈ノ由云々

今回ノ競賣ニ加ハリシ露國人ハ「ミシチエンコ」只一人ノミナルヲ以テ彼レハ無論各國居留地會議員ニ撰定サルヘク且ツ露國領事館建築落成ノ日ニハ日本カ馬山浦ニ警察官ヲ置ケル如ク露國政府モ領事及居留民保護ノ爲メ哈薩克ノ一分遣隊ヲ同地ニ配置シ同地居住ノ安全ハ勿論居留民ノ増殖スルニ從ヒ彼レノ福別ノ増加スルヲ大ニ嬉ヒ居レリ

又「ミシチエンコ」ノ言ニ依レハ露國ノ駐韓公使「パヴロフ」氏ハ彼レニ向テ曩ニ露國カ買收地ニ撰定セシ各國居留地ノ西南境外ニ在ル地所（月影臺附近ナラン）ノ内五萬三千平方米突ヲ千六百圓ニ讓渡スヘシトテ之カ買收ヲ勸誘セシモ「ミシチエンコ」ハ該地所ニ向テ七百圓以上ノ價值ナドシ之カ買受ヲ拒絶シタリ且ツ同公使ハ「ミシチエンコ」ノ友人「ドブジャンスキー」（現ニ長崎ニ在ル露國人ニシテ曾テ當地ニモ來航セシモノ）ニ對シ該地所ノ南隣タル沼地ノ買收ヲ勸メシ由云々

明治三十三年五月六日

(46) 機密京第一七號

〔日本亡命者 前警務官 尹吉의 行跡에 관한 건〕

韓國人尹吉ト云フ者ニシテ先年韓國警務使權滙鎮ノ部下ニテ警務官ヲ奉職シ其後本邦ニ亡命シ坂本淳良ト稱シ居候處今度同人實母儀病氣危篤之故ヲ以テ至急歸國ヲ思立チ本月上旬汽船ニ搭シ仁川ニ上陸致候處同地我警察官ヨリ在留ヲ拒絶サレタル趣ヲ以テ去ル十八日汽船筑後川丸ニテ當港ニ引還シ同日出帆ノ汽船山城丸ニ轉乘シ更ニ元山ニ赴キ申候同人ノ云フ處ニヨレハ同所ヨリ陸路忠清道郷里マテ密行スヘキ目的ナリトノ事ニ有之候右御參考迄ニ申進候 敬具

明治三十三年六月二十七日

在釜山 領事 能勢 辰五郎 團

特命全權公使 林 權助 殿

(47) 機密京第一七號

〔鬱陵島調査概況 吳 山林調査概況 報告 件〕

駐韓日本公使館記録 14

小官五月三十日警部渡邊鷹次郎及當領事館附巡查高倉純雙同肱岡登之進並=佐藤潤象ヲ從ヒ材木取調ノ爲メ内部視察官禹用影及釜山監理署主事金冕秀ト二十日蒼龍號=便乘シ鬱陵島=向ヒ出發翌三十一日着上陸翌日ヨリ三日間島監裏季周ノ邸=於テ受命調査事項=就キ雙方立會日本人及島監ヲ取調ヘ餘日ヲ以テ山林其他ノ雜項ヲ調査シ六日歸途=就キ翌七日歸釜仕候受命調査報告及其他ノ雜項ハ次便ニテ送付可仕候茲=別紙鬱陵島調査概況並=同島山林調査概況及御送付候問御閱覽相成度此段申進候 敬具

明治三十三年六月十二日

在釜山 領事官補 赤塚 正助 印

在京城 特命全權公使 林 權助 殿

○ 別紙 一 (機密京第一七號附屬書)

鬱陵島山林調査概況

鬱陵島ハ韓國江原道ニ屬シタル島嶼ニシテ松島又ハ竹島ト稱シ(東經百三十度八分二厘北緯三十七度五分)釜山ヲ距ル東北百八十哩境港ヲ距ル西北二百哩隱岐ヲ距ル百四十哩ニシテ東西凡六哩強南北凡四哩強海面ヲ抜ク約四千尺周圍凡二十哩峻峭澗澗峯巒重疊鬱蒼タル天然ノ森林ニシテ日光ヲ見サルノ部分其半ヲ占メ老樹衰憊腐朽ニ屬スルノケ所モ尠カラサルナリ陸地ヲ距ル百四十哩ノ小島ナルヲ以テ海底深ク濃藍色ヲ呈シ風波常ニ甚タシク殊ニ灣形ヲナシタルケ所ナク船舶ノ碇泊ニ便ナラス

見込面積凡九千三百三十一町貳及步内凡六千九百九十八町四反歩ハ山林地ニシテ(千四百九十八町四反歩ハ谿及岩石ニシテ五千五百町歩ハ樹林ノ見込)凡二千三百三十二町ハ反歩ハ無立木地ニ屬シ五百町歩ハ切替畑地千八百三十二町ハ反歩ハ不毛地其他ノ見込ナリ

山林ハ針葉潤葉ノ混淆天然林ニシテ潤葉樹大部分ヲ占メ其樹種ハ山毛櫸、モミジ、タブ、樺、梅、樺、ビヤクダン、モチ、櫻、アラムキ、オムバク、テンポナン、桑、五葉松、榎、等ニシテ樺ハ其質最モ良好木理緻密ナルモ梅ハ疎惡ナリ其他ハ日本種ニ異ナル事ナシ

運搬ハ傾斜最モ甚キ海面ヲ距ル遠カラズ谿水又ハ雨水ニ依リ附近沿岸ニ搬出ノ便アリ

既往樺伐木ノ概況ハ明瞭ナラサルモ今ヲ距ル十三年前日本ハ大木ヲ出シタリト云フ蓋シ本願寺建築ノ用材ナランカ其伐木ノ根株點々實見セリ其當時ハ日本人一千人モ渡來シ伐材シタリト云ヘリ

明治三十年ニ芋浦ニテ日本人島監ヨリ貫ヒ受ケ一本ヲ伐採シ二千五百才餘ノ板材ヲ日本ヘ輸送シ韓人(北浦シヨングサンヨリ伐材)伐採シ三千才ノ板材ヲ日本ニ輸送セリ

同三十二年ニハ二十八本日本人ニテ伐採シ拾萬才餘ノ板材ヲ日本ヘ輸送セリ此價一才該島ニテ七錢トシ七千圓ナリ

同三十三年ニハ韓政府ノ公文ニ基キ三十二年十一月島民ト利益分配ノ契約濟ニ係ル八十本ノ

中五十六本伐採シ既ニ五萬才餘ハ日本ヘ輸送セリト云フ

樺材ノ製材費ハ一才(一寸角長七尺)貳錢五厘ニシテ山床ヨリ海岸迄運搬費貳錢乃至貳錢五厘海岸ニテ賣價七錢トスレハ貳錢ノ利益トナル日本マテノ運賃ハ凡貳錢ナリ

藕皮ニテ藕ヲ製造シ日本ヘ輸送シタルハ其總計七千五百貫ニシテ此價三千四百圓ナリ其年別ハ下ノ如シ三十年二千五百貫此價千圓(十貫四圓)三十一年三千貫此價千二百圓(十貫四圓)三十二年千五百貫此價九百圓(十貫六圓)三十三年五百貫此價三百圓(十貫六圓ナリ)

鬱陵島立木見込調表

樹種	目通回	本數	摘要
樺	三尺以上 六尺未満	一六, 三三五	全林ニ點在スルモ牛腸洞南陽洞黃土九味等ノ谿筋比較約多キヲ占メ三尺以上六尺未満ハ四尺位ノモノ最モ多ク六尺以上壹丈五尺ハ八九尺ノモノ多キモ中心腐朽シタルモノ尠カラズ概シテ用材トナシ得サルモノ大半ナラン
同	六尺以上 一丈五尺	一六五	
梅	三尺以上 六尺未満	一四, 六六六	全林ニ點在スルモ峯筋最モ多ク成長良ク曲木ハ稀ニ見ル處ナリ日本種ニ比スレハ材質粗惡恰モ日本種ノ白樺ニ似タリ
同	六尺以上 一丈三尺	七, 七三四	
山毛櫸	三尺以上 一丈五尺	二七五, 〇〇〇	八九尺ヨリ一丈餘ノモノ多シ
モミジ	三尺以上 一丈五尺	五五, 〇〇〇	日本ノ男モミジニシテ五六尺最モ多シ
桑	三尺以上 八尺	五五〇	日本種ニ異ナルコトナシ
テンポナン	三尺以上 九尺	一, 一〇〇	同上
タブ	三尺以上 一丈	五五, 〇〇〇	同上
オムバク	三尺以上 五尺	一, 〇〇〇	同上
五葉松	三尺以上 九尺	五五〇	同上
ビヤクダン	三尺以上 四尺	五, 五〇〇	香氣薄ク熱帶地ニ異ナリ香木トシテ需用見込ナシ
樺	三尺以上 四尺	五五, 〇〇〇	日本種ニ異ナルコトナシ
榎	三尺以上 九尺	五五〇	同上
モチ	三尺以上 七尺	五, 五〇〇	同上
櫻	三尺以上 九尺	五, 五〇〇	同上
アラムキ	三尺以上 五尺	二, 七五〇	同上
計		五〇一, 六〇〇	

備考

一、本表ハ日量總面積九千三百三十一町二反歩ト假定シ内二千三百三十二町八反歩ノ無立木地則チ畑地及不毛地其他トシ殘六千九百九十八町四反歩ノ山林地ノ内谿川及岩石占有面積千四百九十八町四反歩ヲ控除シ全殘五千五百町歩ノ樹林ト見做シ凡全林ノ十分ノ一踏査日量ノ結

果ニ依リ立木ノ見込ヲ定メタメタルモノナリ
本表ノ立木總數ハ目通面三尺以上ノモノ五十萬一千六百本トナルモ前項ノ査定法ニヨリ僅カ
ニ四日間ノ調査ニ過キササルヲ以テ素ヨリ精察ナル能ハス

○ 別紙 二

鬱陵島調査概況

第一. 位置及地勢

鬱陵島ハ釜山ヲ距ル百八十哩元山ヲ距ル百八十哩日本ノ隠岐ヲ距ルコト百四十哩ノ海洋ニ孤
立セル一島嶼ニシテ周回凡ソ十里全島島皆巖石ヲ以テ數多大小高低ノ山ヲ築キ無數ノ深谿其間
ニ縱横シ山嶺ヨリ谿間ニ至ル迄蒼蒼タル樹木ヲ以テ蔽ハレ極メテ壯觀ナリ沿岸一帯皆殆ント懸
崖絶壁ニシテ港灣殆ント無ク風浪ノ際ハ船舶ノ難ヲ避クルニ由ナン僅カニ道洞ト稱スル所ニ於
テ絶壁ノ間ニ極メテ狭キ一港アリ日本ノ風帆船二百石積以下ノ者ハ此處ニ來リテ碇ヲ下スト
雖トモ風浪ヲ防クニ足ラサルヲ以テ皆之ヲ陸ニ引揚ケ居レリ故ニ汽船ノ如キハ穩波ニ乗スルニ
非サレハ該島ニ至ルコトハ甚タ危険ナリ此ノ如キヲ以テ元山釜山若クハ日本ノ境若クハ馬關等
最モ該島ニ接近セル場所トモ舟楫ノ往來至テ少ク所謂絶海ノ孤島ナリ陸上ノ交通モ亦多クノ山
谷ヲ上下セサル可カラサルヲ以テ殆ト道路ト稱スヘキモノナク一ノ村ヨリ他ノ村ニ至ルニハ極
メテ困難ナリ

第二. 産物

海産物トシテハ若布水草鮑魚ノ類ニシテ其産額ハ多カラス漁業ハ海底概シテ深く且ツ巖石多
キヲ以テ全ク見込ナン

農産物トシテハ大豆麥及馬鈴薯ノ類ナリ然レトモ全島山ノ集合ニシテ全ク平地ナキヲ以テ島
民ハ山ノ半腹ニ島ヲ開キ蒔種セサル可ラス島地ノ面積ハ餘マリ廣カラス而カモ既ニ開墾シ盡シ
テ寸尺ノ餘地ナキカ如シ大豆ノ總産額ハ年平均凡ソ五千石ニシテ内平均三千石ハ重モニ之ヲ日
本ニ輸出ス其代價日本相場平均二萬圓位ナリ麥ノ産額ハ其數量ヲ詳ニスル能ハスト雖トモ島民
二千五百餘ノ常食用ニ供給シテ殆ト餘剩ナク僅カニ百石乃至百五十石ノ輸出ナリ

馬鈴薯ハ島民ノ副食物トシテ用ユルモノニシテ産額多カラス林産物ハ實ニ鬱陵島ノ價ヲ爲ス
モノニシテ樹木ノ重モナル者ハ槻木白檀, 梅, プナ, タブ, 繭桑等ナリ

槻木ハ其質頗ル佳良ニシテ日本ニ多ク其比ヲ見スト云フ然レトモ其大ニシテ價アルモノハ既
ニ殆ント伐採シ盡シテ六丈以上一丈五尺以下ノ者ニシテ現在スルモノ僅カニ百五十株ニ過キス
其内九尺内外ノモノ最モ多シ而シテ其製材ニ適スルハ又三分一弱ナラン三尺以上六尺以下ノ者
ハ其數少カラサルモ小ナルヲ以テ價廉ナリ要スルニ槻木ハ今後餘マリ見込ナン

白檀ト稱スルモ印度地方ニ生長スル者ト其質ヲ異ニシ香氣少ク眞ノ白檀ト稱スルヲ得サル由
ニテ從テ價廉ニシテ又絶壁ノ上ニ在ルヲ以テ伐採困難ナリ株數ハ少ナカラサル見込ナリ

梅ハ其數甚タ多ク且ツ大ナリ然レトモ樹質良好ナラス木材トテモ價値ナン
繭ハ以前ハ多カリシモ今日ハ切り盡シテ少ナン質ハ上等ナリ其他ハ略ス

第三. 輸出入

輸出品ノ重モナルモノハ槻木材ハ別トシテ大豆麥胡太鮑天草繭等ナリ
三十年三十一年三十二年ノ三年間ノ平均ノ輸出高ヲ日本相場ヲ以テ示セハ一年平均

大豆	二萬圓	韓人ノ産出スルモノ
胡太	七百七十圓	
麥	九百六十圓	
鮑	二千九百六〇圓	日本人自ラ取りテ持歸ルモノ
天草	一千二百圓	
繭	六千圓	

合計三萬〇一百六〇圓

輸入品ハ綾木綿金巾綿其他飲食品ニシテ三十一年及三十二年ノ平均輸入高七千圓内外ナリ
輸入品ハ在嶋日本人カ自用ニ供スル外韓人ノ大豆胡太麥等ト交換スルナリ
仕出地及仕向地ハ島ハ道洞日本ハ境, 馬關, 鶴賀, 濱田等ニシテ境ハ其七分ヲ占ム

第四. 島治

島民戸數五百二十餘人口二千五百有餘島監ナル者アリテ島治ヲ司ル島監ノ下ニ各村ニ村長ナ
ルモノアリ村ノ世話役ナリ島監役場ハ今マ道洞ト稱スル所ニアリテ現島監ヲ斐季周ト稱ス韓廷
ヨリ一文ノ俸給ヲ受ケス又嶋民其他ヨリ收入少キヲ以テ貧窮ニシテ無勢力ナリ加フルニ權力ナ
キヲ以テ島民ノ八分ハ尊敬シテ其命ニ服セス故ニ治績學ヲス島民相互ノ間ハ隣保相親シミ能ク
共同生存ノ秩序ヲ保テリ斐島監ハ日本ニ三度到リタルコトアリテ稍々日本語ヲ解シ日本人ノ爲
メニ頗ル便利ナリト雖トモ彼レ日本ニ到リ槻木材ノ日本ニ於ケル價値ヲ知レル故ニ常ニ自ラ伐
採シテ日本人ノ一人ニ結托シ利益ヲ專ニセントノ考アリ昨年以來彼レカ韓廷内部ニ向テ日本人
槻木盜伐云々ヲ報告シ又ハ島民槻木ヲ視ルコト生命ノ如シナト云ヘルハ全ク右ノ魂膽ニ出ルモ
ノニシテ島民ハ槻木ノ價ヲ解セス山ニ入りテ見ルニ皆之ヲ薪炭用トシテ伐採シ居レリ此ノ如キ
ヲ以テ島監ト日本人ノ間ハ感情面白カラス

第五. 在島日本人

在島日本人ハ重モニ島根縣人ナリ其數ハ年ト時ニ依リテ増減アリ一定セス現在ノ數ハ百人内
外ナリ在嶋日本人ノ話ヲ聞クニ日本人ノ該島ニ初メテ來リタルハ明治二十四年竊製造ノ爲メ七
人渡航シ來リタルヲ始メトシ其後續テ入りタルモ二十五年ヨリ二十八年迄ハ明ナラス二十九年
以後二百人内外在嶋セリ重モニ樺木伐採者並ニ其附屬員ナリ目下在島ノ百人ハ日本ヨリ元山若
クハ釜山ニ向ツテ渡航ノ途中天氣ノ都合ニ依リ寄港シタル者及態々來島シタル者ナルカ船舶ノ
出港免狀及旅券ハ多ク元山若クハ釜山宛テナリ彼等ハ道洞ト稱スル村ヲ中心トシテ集マリ其他

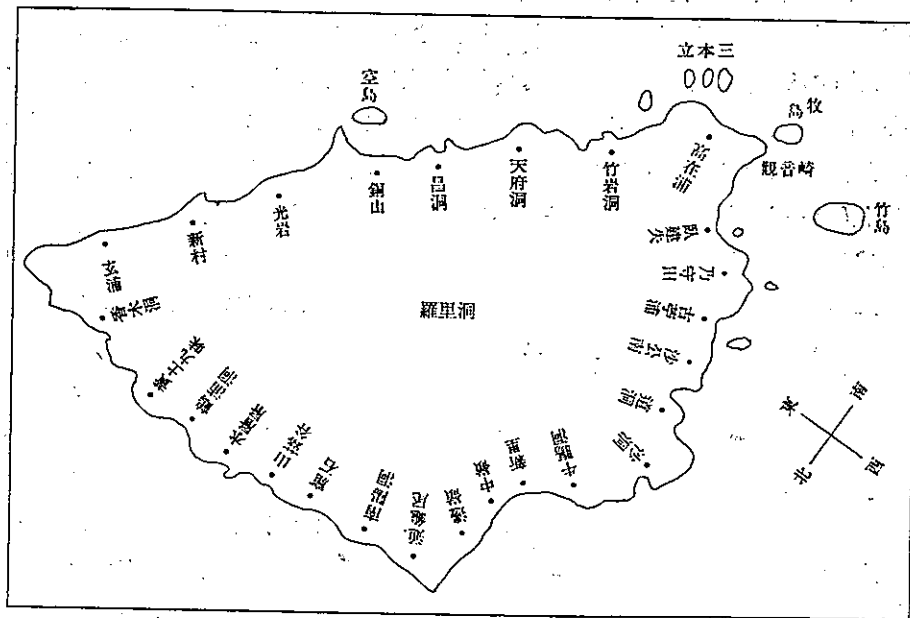
各所ニ散在ス彼等ハ一ノ組合ヲ作り幹事ヲ置キテ相互ノ秩序ヲ維持ス
島監斐季周ニハ餘マリ敬服セサル風ナレトモ別ニ亂暴等ヲ爲シタルコトナン殊ニ前幹事片岡
吉兵衛ナルモノ及現幹事松本繁榮ハ能ク斐島監ト折合ヒ居レリ島民トハ至テ感情宜敷島民ハ日
本人ニ依リテ多クノ便利ヲ與ヘラレ居ルコトヲ喜ヒ居レリ島民ノ衣服地タル綾木綿金巾等ハ皆
日本人ノ輸入ニ係ル本國トノ往來ハ皆日本形風帆船ニ依リ現在寄港中ノ者十一艘ヲ見タリ平均
百石積内外ナリ港ナク風浪高キヲ以テ往來至テ少シ

第六. 蔚陵島ニ對スル將來ノ見込

前來述ヘタル所ニ依ルニ海産物ハ見込甚タ少ナク加フルニ近頃鮑天草大ニ其數量ヲ減シタル
模様ニテ在島日本人ノ話ヲ聞クニ器械船一艘以上ハ見込ナントノコト農産物ハ大豆ヲ除キテ他
ニ見込ナシ之レトモ僅カニ年輸出額三千石ニ過キス尙將來其産額ヲ増加スル見込ナシ最モ有
望ナリト稱スル山林中最モ價値アル槻木ハ既ニ六尺以上ノモノハ切盡サレ現存スル者ハ其數二
百ニ滿タス而カモ其内中心腐敗シテ製材ニ適セサルモノ少ナカラス木挽ノ話ヲ聞クニ大低來年
一配ニ切盡ス見込ナリトノコト

樺ハ數多ク且ツ大ナレトモ樹質上等ニアラス其他ハ價値アルモノトシテ數フルニ足ラス以上
ノ如キヲ以テ蔚陵島ハ將來甚タ有望ナラス故ニ現在在嶋ノ日本人ヲ立退カシメ尙且ツ將來ノ入
島ヲ禁スルモ其失フ所ハ實ニ僅少ノ額ニ止マルヘシ然レトモ今年間在嶋日本人問題ヲ未決ニ
付シテ差支ナキ方法アラハ槻木ハ大抵伐リ盡サレン

○ 附録圖面



(48) 機密第二一號

[日韓貿易振興擴張 등에 관한 件]

日韓貿易振興擴張ニ關スル件及朝鮮沿海漁業保護並ニ取締等ニ關シ別紙寫之通り外務大臣ヘ
專見開陳及ヒ置候ニ付御參考ノ爲メ別紙二通提出致候間御一覽相成度此段申進候 敬具

明治三十三年九月一日

在釜山 領事 能勢 辰五郎 團

在京城 特命全權公使 林 權助 殿

○ 別紙 一

日韓貿易振興擴張ニ關スル卑見

日韓貿易振興擴張ニ關シテハ既往十數年間前任者ニ於テ經營慘憺候ハ上申ニ報告ニ其意見ヲ
縷陳シテ餘蘊ナク内ハ居留民ヲ開發誘導シテ種々ノ設備ヲ試用セント雖爾今著名ナレ効果ヲ見
サルハ勿論近年商況不振ノ一方ニ傾向シ商民究窘ノ狀觀ルニ忍ヒサルニ際シ從來日本商民ノ獨
占ニ係ル商權モ今ヤ漸々外商若ハ清國商人ノ手ニ據リ甚シキハ韓人ノ手ニ掌握セラルムノ實勢
ヲ現出シ日韓貿易上不容易ノ現象ヲ呈出シ來リタリ是レ畢竟スルニ當港在留本邦商人ハ米大豆
ノ輸出ヲ以テ唯一ノ方針トナン敢テ他ヲ顧ミル暇ナキニ原因スルニ外ナラサレトモ元來米豆
ハ年ノ豊凶ニ依テ直ニ貿易ノ消長ヲ來シ其昂底ハ直接商人ニ利害ヲ及スモノニシテ釜山開港以
來茲ニ二十有餘年之レカ爲メ居留民ノ浮沈ヲ免ヌカレサレトモ要スルニ今日ニ至ル迄未タ曾テ
之ニ由テ以テ韓國ニ於ケル米豆産額ノ増加ヲ促シタル事蹟ヲ見ルニ足ラサルナリ今試ニ既往十
年間ノ貿易數量ヲ以テ今日ノモノト對照セルニ成程輸出入價額ニ於テハ數百萬圓ノ増加ヲ示ス
ト雖其數量ニ於テハ殆ト大差ナキモノト如シ夫レ價格ノ増加セルハ本邦ニ於ケル物價ノ騰貴ニ
促カサレ本港商民ノ買進シタルニ職由スルモノニシテ現ニ昨三十二年度ノ如キハ一昨三十一年
度ニ比シ百五十萬圓ヲ減少シタルモ數量ニ於テハ一昨年ト大差ナキヲ以テモ之ヲ知ルヲ得ヘシ

當港商品ノ大宗ト仰ク米豆既ニ然リトセハ其他ノ雜品ニ於テモ勿論同一般ノ有様ニシテ從テ
米豆ノ交換品トシ韓人ノ費消ニ供スル輸入品ニ就テ見ルモ單ニ其元價ノ騰貴ト共ニ輸入價額ニ
於テ増加現ハセトモ其數量ニ於テハ是又更ニ著シキ増加ヲ見ルコト能ハサルナリ之ヲ約言セハ
本港過去十數年間ニ於テ貿易上毫モ増加發達ヲ見スト云フモ敢テ誣言ニアラサルナリ

今其由來ヲ研究スルニ主トシテ韓國地方官民ノ殖産工業ニ勉メサルニ基因スルト同時ニ本港
我居留民カ十年一揆舊慣ヲ墨守シテ更ニ開發進展ノ氣概ナキニ職トシテ之ニ由ラスレトアラ
ト斷言シテ敢テ憚ル處ナカルヘシ今ヤ彼カ如キ韓人ニ據テ内地ノ殖産ヲ望ミ此ノ我商民ニ依テ
以テ貿易ノ増進ヲ圖ラントスル猶木ニ由テ魚ヲ求ムルト一般到底勞シテ功ナキヲ知ルト雖去リ
迎テ之ヲ等閑ニ附スルトキハ百數十年來ノ歴史ヲ有スル我專管居留地ノ利益モ漸次外人ニ蠶食

ル調査ノ要件ヲ帶ヒ居候趣ニシテ右貯炭庫ハ壹萬噸ヲ容ルムニ足ルヘキ建造ヲナス管ナルモ先ツ其半ヲ貯フルニ足ルヘキモノヲ建築シ追テ別棟トシテ其一半ヲ收容シ得ヘキモノヲ建築スヘキ豫定ノ由ニテ其工事請負等ハ十中八九迄ハ當地ニテ數年來露國軍艦用達ヲ專業トスル長崎商人岡本勇ナルモノニ受負ハセシムル事之趣ニ有之候不取敢御參考迄此段申進候 敬具

明治三十三年十二月二十九日

在釜山 領事 能勢 辰五郎 回

在京城 臨時代理公使 山座 圓次郎 殿

(58) 機密京第三三號

[日軍 元山駐劄隊長の 韓人亡命者 庇護行爲 團束 件]

活貧黨ニ關シ曾テ屢次及御報告候韓人朴致英ナル者本月二十四日山城丸便テ日本ヨリ元山ニ赴キタル處今便又其元山ヨリ大連丸ニ乗組當港ニ着シ直ニ本邦ヘ向ケ渡航致候同人ノ云フ處ニ依レハ今回日本ヘ渡航スル目的ハ趙義淵ニ面會ノ上何事カ計劃スルニアリトノコトナレトモ其目的那邊ニ存スルヤハ今強テ推問スルノ必要ナシトスルモ本人ノ行動ヲ容易ナナラシムル爲メ豫テ元山駐劄隊長ニ於テ種々幫助ヲ與ヘツムアル次第ニシテ今回モ同隊長ハ彼ニ船賃ヲ貸與シタルノミナラス現ニ該駐劄隊付韓語通辯近藤範治ナル者ヲシテ同人ヲ東京迄隨行センメ而テ東京到着ノ上ハ右近藤方ヘ寄宿セシムル趣ニ有之候元來元山駐劄隊長ハ前任ノ牛尾大尉ノ當時ヨリ常ニ韓國亡命者若クハ之ト氣脈ヲ通スルモノニ對シテハ特ニ親密ノ交際ヲナシ之ヲ庇護シタルコト屢々有之是レカ爲メ慣例トナリタルモノカ現任駐劄隊長モ又右ノ如キ厚意ヲ以テ彼等ヲ遇スルコトニ相成居候是レ述モ該元山ノミニ限リタル儀ニ有之候得者其弊害モ一局部ニ止リ敢テ掛念ヲ要セサルモノト如ニ有之候得共是等ノ弊害ハ單リ一局部ニ止ラス當地等ヘモ傳播スルナキヲ保セス既ニ前當港駐劄隊長タリシ竹村大尉ニ於テモ牛尾氏ト同様ノ次第ニ有之候ニ付現任ノ矢野駐劄隊長赴任セラレタル當時ニ於テ小官ヨリ特ニ右等ニ關シ縷々戒告ヲ加ヘ置候次第モ有之候候處幸ヒ矢野大尉ニ於テハ小官ノ忠告ヲ容レ爾來其戒告ノ如ク彼亡命者ニ對シ何等庇護シタル事實モ無之候得共同一聯隊ノ下ニ於ケル中隊長ノコトニモ有之候得者自然其弊習ニ染リ今後如何ナル方針ニ變シ可申哉掛念ニ不堪次第ニ有之候就テハ右等ニ關シテハ元山駐劄隊長ハ勿論其他ノ駐劄隊長ニ於テモ領事ニ協議スルコトナク單獨ニ韓國亡命者ニ關係スルカ如キコト無之様御取計相成候方可然哉ニ被存候間爲念此段申進候 敬具

明治三十三年十二月二十九日

在釜山 領事 能勢 辰五郎 回

在京城 臨時代理公使 山座 圓次郎 殿

企劃編輯	編史部長	申載洪
	近現代史室長	李尙根
	編史研究士	具仙姬
謄寫・校閱	史料研究委員	朴炳元
	史料研究委員	金炅春
		孟韞在
		吳基芳
		金鍾琳
		南杞燮

駐韓日本公使館記録 14

1995年 11月 25日 印刷 政府刊行物審議畢
1995年 11月 30日 發行 (No. 95-12-5-28)

發行 國史編纂委員會
④②⑦-①①①① 京畿道 果川市 中央洞 2-6
電話 503-9544

印刷處 (株)時事文化社
서울特別市 中區 明洞2街2番地
電話 776-0772